

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成27年1月14日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 経済研究所

職 名・学 年 助 教

氏 名 高 橋 修 平

助 成 の 種 類	平成26年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成	
研 究 集 会 名	計量経済学会ヨーロッパミーティング2014 (European Meeting of the Econometric Society 2014)	
発 表 題 目	価格と賃金設定の状態依存性 (State Dependency in Price and Wage Setting)	
開 催 場 所	トゥールーズ経済学院 (Toulouse School of Economics)	
渡 航 期 間	平成26年 8月23日 ~ 平成26年 8月30日	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有( )	
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	250,000円
	使用した助成金額	250,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳	往復航空券および燃油サーチャージ 250,000円 ----- ----- ----- -----
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) この度は、研究報告の助成をして頂き、誠にありがとうございました。このような研究支援が継続されることを強く期待致します。	

## 成果の概要／高橋修平

報告者は、京都大学教育研究振興財団の「国際研究集会発表助成・若手」を受け、第 68 回計量経済学会ヨーロッパミーティングにおいて研究発表を行った。以下その概要を記す。

### 研究集会の概要

本研究集会は、経済学分野で最も権威ある学会の一つである計量経済学会のヨーロッパミーティングである。ヨーロッパで開催されるが、世界各国から多数の研究者が集う大規模な国際研究集会である。本年度も、同時開催されたヨーロッパ経済学会の年次総会も含めると、400を超える一般報告セッションが開かれた。また、Randall Wright（ウィスコンシン大学）や Harald Uhlig（シカゴ大学）など著名な研究者による講演も行われた。

報告者は、マクロ経済学に関連するものを中心に講演・一般報告セッションに参加し、最先端の研究について情報収集を行った。また、関連研究者とのネットワークの構築にも努めた。

### 報告の概要

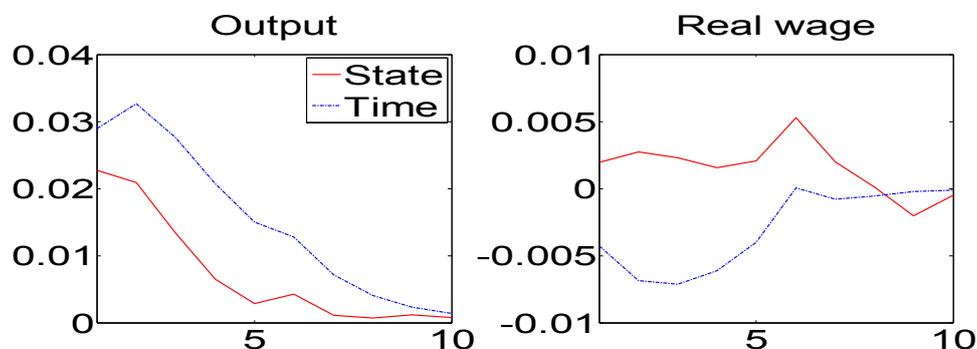
報告者は、一般報告セッションの一つ「New Keynesian Models」において、論文「価格と賃金設定の状態依存性(State Dependency in Price and Wage Setting)」を発表した。

本論文は、賃金設定に見られる状態依存性が貨幣ショックのトランスミッションに及ぼす影響を分析したものである。賃金設定の状態依存性とは、賃金改定のタイミング・頻度が経済状態に応じて変化することを意味する。最近の日本経済のように、物価上昇率が高まると賃金の改定頻度が高まるなど、賃金設定には状態依存性が見られることが分かっている（例えば Taylor 1999 を参照）。一方、これまでのマクロ経済研究では、分析の簡便さから、賃金改定のタイミング・頻度が経済状態に依存しない、いわゆる時間依存型モデルが用いられてきた。しかし、時間依存型の賃金設定が現実に見られる状態依存型の良い近似になっているのかは未解明の問題である。名目賃金の設定メカニズムは貨幣ショックの波及を初めてする景気循環、そして金融政策の設計に対して重大な影響を及ぼすことが知られており、時間依存型と状態依存型の賃金設定の違いを理解することは、マクロ経済学にとって大きな意義がある。

そこで本論文は、状態依存型の賃金設定を仮定した New Keynesian 型の動学確率一般均衡モデルを構築した。具体的には、Dotsey, King, and Wolman (1999)の価格設定の状態依存性モデルを基に、価格・賃金設定がともに状態依存性となる新しいモデルを開発した。そして、そのモデルにおける貨幣ショックのトランスミッションを時間依存型モデルのものと比較した。

分析の結果、状態依存・時間依存型賃金設定では貨幣ショックの波及に違いが生まれること

が分かった。具体的には、下図にあるように、状態依存性(State)の場合、貨幣ショックに対する産出量(Output)の反応が時間依存型(Time)に比べて減少することが分かった。また、状態依存性の下では、データと整合的に実質賃金(Real wage)が正循環的になるが、時間依存型では実質賃金が逆循環的になることも分かった。



貨幣ショックに対する反応  
(縦軸は定常状態からの乖離率、横軸はショック後の時間)

報告者のセッションには、南北アメリカ、ヨーロッパ、アジアなどから、大学、中央銀行所属の関連研究者が参加しており、報告者の発表に対して、様々な質問・コメントがなされた。特に、モデルの解釈、パラメータ値などについて建設的なコメントを得ることができた。それらのコメントを基に論文の改訂を進めたい。

#### 参考文献

- Dotsey, M., R.G.King, and A.L.Wolman (1999) 'State-Dependent Pricing and the General Equilibrium Dynamics of Money and Output,' *Quarterly Journal of Economics*, 114(2), 655-690.
- Takahashi, S. (2014) 'State Dependency in Price and Wage Setting,' Mimeo.
- Taylor, J. (1999) 'Staggered Price and Wage Setting in Macroeconomics,' in *Handbook of Macroeconomics*, Volume 1, pp1009-1050.